



高島地域 住民自治協議会 だより【No.9】

区・自治会アンケート調査を実施しています



「遠くの親戚より、近くの他人」という言葉があります。

困ったときに近所に声かけをする相手や、相談できる人がいることは、安心できる暮らしにつながります。

日頃から地域の行事を通して顔なじみになり、一緒に活動した経験を共有できるなど、地域のつながりの基盤となる役割を果たすのが区・自治会です。

今年6月から開設しています相談窓口には多くの相談が寄せられていますが、特に、区や自治会の問題は広範囲にわたっており、深刻な事例も見受けられます。

このことから、当協議会として、今後どのように関わり、支援していけるのか。まずは区・自治会を取り巻く現状や課題を詳しく把握するためにアンケート調査を実施しています。

今回の調査では、「区・自治会活動の中で困っておられること」のほか、「区長・自治会長を務める上で、負担になっていること」、「区長や自治会長の負担を軽減するために取っている対策」、「当協議会に支援を求める場合の支援策」などを中心にお聞きしています。

集計結果については、来年1月発行の「自治協議会だより」で詳しくお知らせします。

12月の予定表

相談員

日	曜日	予定	相談員
1	木		川島 清治
2	金		竹中 寛
3	土		林 勝
4	日		加藤 幸江
5	月	お休み	
6	火	お休み	
7	水		清水 良恵
8	木		水谷 裕之
9	金		藪内キヨコ
10	土		井上 修三
11	日		廣坂 吉憲
12	月	お休み	
13	火	お休み	
14	水		河毛 悦男
15	木		仁賀 定夫
16	金		川島 清治
17	土		横田 久夫
18	日		山田 善嗣
19	月	お休み	
20	火	お休み	
21	水		清水 良恵
22	木		竹中 寛
23	金		仁賀 定夫
24	土		林 勝
25	日		水谷 裕之
26	月	お休み	
27	火	お休み	
28	水	事務所大掃除	なし
29	木	お休み	
30	金	お休み	
31	土	お休み	

サポートリング伝言板

大溝城跡・城下町・白鬚神社
継体天皇生誕地

ボランティアガイド 募集!!



大溝の水辺景観まちづくり
協議会

〒520-1121 高島市勝野1688
(水・木は休館)

☎ 0740-36-2011

新規消防団員募集!

高島地域消防団では近隣の
方々の安全を守る消防団員を
募集しています

男女不問、学生団員も大歓迎
詳しいお問い合わせは高島地域
消防団(副団長川島)まで



☎36-1139
090-8792-5625
info@kawashima-zouen.com

【原稿募集】

毎月発行している「高島地域住民自治協議会だより」に区・自治会、各種団体のPRやお知らせなどを掲載いたします。

団体PRやイベントの募集など、掲載のご希望がありましたら「サポートリングたかしま」にご相談ください!

サポートリングたかしま 高島地域住民自治協議会

事務所: 高島市勝野670番地 高島公民館2F

開館日: 日・丹・火・水・木・金・土 (お休みは予定表をご覧ください)

相談時間: 10時~13時 (相談員が待機しております)

開館時間: 09時~16時 (パソコン入力などのお手伝いをします)

☎: 090-2115-9055 (お越しの際は、まずはお電話下さい)

メール: takashima.juminzichikyoku@gmail.com

永田区紹介

一致団結と独立独歩

永田区は、上、下永田合わせて約80軒よりなる集落です。

上永田には式内社に比定される長田（おさだ）神社、永田氏（高島七頭）の居城跡（土塁に囲まれている）と伝えられている藪地があります。また、城出、中門司という小字名、集落内の水路や小路からも城の存在が想定できます。このように古代から現代まで綿々と続いてきた土地柄を反映して、上永田には一致団結の気風が色濃く残っています。



〈防災訓練〉

このような永田区は、昭和60（1985）年に、区組織が大きく変わりました。それまで区長と組長だけで運営されてきたものが、運営役員会、保体部、防災部、文化部が役割分担して区の行事を行うようになりました。その後組織改編が行われ、現在、運営役員会（区全般業務）、保体部（スポーツ大会、秋祭り）、生活部（河川清掃、どんど祭り）、防災部（区内防火、防災訓練）、福祉部（主に高齢者向けサロン）が活動しています。

下永田には、地名として残る青冷寺があったようですが、その場所は確定していません。ただ、寛文四年（1664）大溝絵図には、新町から北に延びる道の先に寺のような建物が描かれていて、どこかに青冷寺があったことは間違いないようです。そして、その街道（？）筋に発展したのが下永田で、商売をする家が多かったようです。今昔問わず挙げると、日用雑貨、瓦、建具、織物、豆腐、新聞、呉服、魚、醤油、大工、お菓子、畳、撚糸、箆、機械等々あり、そのことから下永田には独立独歩の気風が残っているように思われます。



〈秋祭り〉

高島地域の

コナ話

あんな話

雪とともに暮らし、雪と格闘する

高島市（高島地域）

いきなりクイズです。高島市は気象予報的には「近畿北部」、それとも「近畿中部」？

さてどちらでしょう。

答えは、春から夏にかけては瀬戸内気候に近く天気予報では「近畿中部」とされています。一方、秋から冬にかけては日本海型の気候となるため「近畿北部」となります。

さて、高島市は冬季には平野部で数十センチ、中山間部では二メートルを越す積雪が見られる豪雪地域ですが、北緯三五度程度の比較的緯度にあって標高も百から数百メートルとそんなに高くないのに、このように多くの雪が降るのは世界的にみても特異な地域であるとされています。

雪は、春になれば自然に消えてしましますが、積もると放つてもおけず、早朝からしんどい思いをして「雪かき」作業を行う光景が見られます。

少しでも雪との格闘を楽にするため、県や市では地下水を利用した融雪装置を通行量が多い道路に整備してくれています。

一方、畑や鹿ヶ瀬、富坂などの坂のある集落では、集落の上側から道路幅いっぱい川のように水を流して積雪を防止する工夫をしているところもあります。

この様に雪と格闘する様々な工夫がみられますが、今後さらに高齢化が進んだ時、自助努力の除雪が困難になるだけではなく、集落で互いに力を合わせた互助の仕組みも機能しなくなる恐れが出てくるかもしれません。

今の除雪の仕組みもさなる工夫が必要かと思う今日この頃です。

注：「高島地域の コナ話 あんな話」は今号をもって一旦終了し、次号からは新しいシリーズが始まります。